

糸

車

編集 山形村ふるさと伝承館

開館10年をむかえた伝承館

更なる飛躍を期待して

意努力する事を約束しお祝いのあ
いさつと致します。能であります。新伝承館の設置も
具体的な視野に入れ今後益々発展
させていきたいと考えます。山形村長
齐 藤 清山形村教育長
上 條 光 男

開館十周年によせて

ふるさと伝承館長
上 條 信 義

ふるさと伝承館十周年を中心からお喜び申し上げます。伝承館は村の方々から御寄付頂いた昔の道具や養蚕関係資料を始め、遺跡から出土した土器や石器など貴重な資料が陳列されており、村の歴史を語る唯一の施設であります。

インターネットに代表される高度情報化社会の到来は例外なく我が村にも寄せせており、「山形らしさ」も、多様に見えながらも実は均一化へと向かう現代社会の波に飲み込まれつつあります。山形らしさとは先人たちが長くにわたって受け継いできた伝統文化であり、伝承館の存在はまさしく人々の生活を活性化させる、山形らしい村づくりをするための礎であるといえます。

十年間にわたって伝承館の発展にご尽力された方々の功績に改めて感謝申し上げるとともに、今後益々の発展と充実に村としても鋭

最近行われたあるアンケート調査による郷土の伝統文化、文化財などに興味があるかという問い合わせに約六割の人が興味があると答えているそうである。こうした状況下、村の伝統文化、文化財を後世へと継承していく伝承館の役割は大変に重要と言えましょう。

今日の博物館は昔の道具を並べてあり、知識の一方的な教授を行う展示施設だけに限らず、物を考え自分で学習を発展させ、「かみしめる楽しさ、分かち合う楽しさ」を味わう生涯学習施設としての役割も求められてきています。

十年間に蓄積された資料をもとに更なる発展が必要ですが、現状では博物館として生涯学習施設の役割を十分に發揮することは不可

山形村歴史民俗資料館としてふるさと伝承館発足以来、最早十周年を迎えることになりました。顧みるに開館準備に委員一同協力し、手作りで資料展示場を完成させました。爾来諸行事を催し専ら維持管理に努めて参りました。

恰も資料館は村発足百周年記念事業の一環として計画されて以来の懸案事業でしたが、諸事業が優先されて参りました。本館は旧役場庁舎建物を再利用したものであり老朽化してきました。建て替えの時期も来ています。新資料館の設置を速やかに進められんことを希つて挨拶と致します。

各地区の蚕玉様

蚕玉様

蚕玉神



上竹田中村辻の蚕玉様①

蚕玉様

蚕玉

だま

さま

【上大池】

諏訪神社南の辻、豆沢北に建つ
ている蚕玉様で、青木沢と豆沢の
養蚕農家によって建てられた。高
さ一六〇センチ、幅一二〇センチ、
厚さ二〇センチの大きな蚕玉様
で、時の養蚕農家のお蚕様に対す
る信仰心の厚さが偲ばれる。祭り
は年一回、春に行われる。



(中耕地辻の蚕玉様③)

(諏訪社辻の蚕玉様②)



中耕地、久保、堤の養蚕農家によ
り建てられた。

祭りは年一回、春二月に行われ
ている。

中耕地、久保、堤の養蚕農家によ
り建てられた。

(中耕地辻の蚕玉様④)

村の石造文化財は千体を越える
が、その中に蚕神の供養塔が一
体ある。それらは一様に蚕玉様と
呼ばれているが、調べてみると蚕
玉神と刻まれたものは三基で、蚕
大神が三基、養蚕神が二基、蚕玉
尊神・蚕玉守護神・蚕神靈が各一
基づつである。

蚕神は養蚕の守り神であるが、
特定の守護神ではなく、関東方面
でオシラサマと呼ばれる馬鳴菩薩
など地域により各家によつて
種々な神仏が信仰され、初午の蚕
種祝いや、養蚕終了祝いの蚕靈あ
る。

中耕地辻には大小二基の
蚕玉様が並んでいる。大きな方
は明治十一年（一八七八年）に
建立されたものであるが、その
他の十基は総て明治時代の建立で
ある。今は全く見られなくなつた
山形村の養蚕は、かつて長野県下
第一と言われ、長野県で一番なら
日本一だと自負した時代があつた
が、これら十一基の蚕玉神碑はそ
の時代を語る歴史的文化遺産とし
て大切にしたいものである。



【中大池】

区の蚕玉様として旧公会所の東南にあつた杉の木と桜の木の根本に、明治五年に建立されました。

祭りは区費により区内で行なわれた。毎年青年会が主体となつて初午の日に盛大に行い、宵祭りには養蚕農家を始め一般区民も祭りに参加し、子供達は太鼓を打ち鳴らし大賑わいでした。昨今は蚕の飼育も絶てなくなり祭りも必然的に消滅してしまいました。

昭和五十九年、農村振興運動場



(中大池地蔵様広場の蚕玉様⑤)

の開設に伴い移転せざるをえない状況となり、地蔵様広場へと移転建立され今日に至っています。

【上竹田】

四ツ谷原村及び、宮村・殿村・中村・御判形・下本郷をあわせてまつっているものと、計三箇所に



(小坂大日路傍の蚕玉様⑥)

存在する。石碑はいずれも明治二六年から二九年に建立されており、当時我が国の製糸産業がいかに目覚しかつたかがうかがわかる。

養蚕の盛ん

だつた頃は年二回春秋に祭典が

行われていたが、戦後中国産生糸の輸入などで養蚕農家が消滅した

今となつては、年一回春の初牛頃、

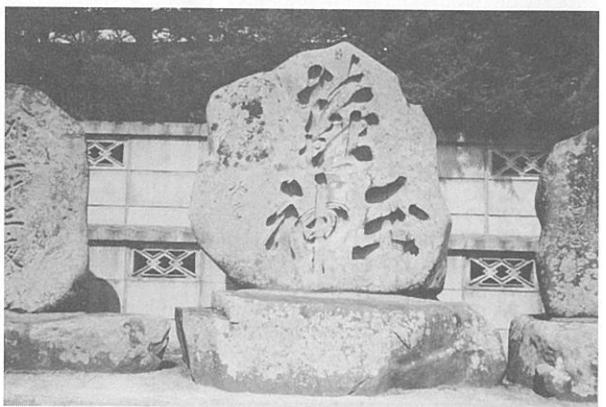
昔の通り神官による祭典が各常会の役員により執り行われるのみと

なつた。

昔の祭は、当屋が米を集めて繭玉だんごを作り、宵祭には幟を立て灯籠をあげて盛大にお祭りをした。本祭は耕地中の人が集まり神前で神主が祝詞を上げて祭りを行つた後、集会所でお祓いを行なつたものでした。



(上竹田原村の蚕玉様⑦)



(上竹田)
四ツ谷の蚕玉様⑧

山形村の蚕玉様一覧

所在地	碑面	記年銘	施主銘	碑量			番号
				高さ	幅	厚さ	
上大池 豆沢北	蚕大神	明治9年	上方耕地中	160	120	20	②
上大池 中耕地東	蚕大神	明治10丁丑 2月初午	大池上卿	270	130	30	④
上大池 中耕地東	蚕玉守護神	明治元年	なし	76	35	18	③
中大池 地蔵様広場	蚕玉尊神	明治5年申年	中大池村中	150	70	20	⑤
小坂 大日路傍	蚕大神	明治15午年 8月4日	なし	50	25	10	⑥
上竹田 四ツ谷辻	蚕玉神	明治26年 3月17日	四ツ谷作	115	100	15	⑧
上竹田 原村広場	蚕神靈	明治26年 旧2月15日	原村講中	130	90	50	⑦
上竹田 中村辻	蚕玉神	明治28年初午之日	下、御判形、中、新 田、殿、宮耕地中	230	160	40	①
下竹田 北村	養蚕神	明治18年 9月日	なし	100	50	30	⑨
下竹田 南堀辻	養蚕神	明治39年2年	蚕玉社中	100	100	15	⑩
下竹田 原町権現	蚕玉神	皇紀2600年 昭和15年初午	耕地中	95	85	25	⑪

追記：編集後に中大池上手東宅地内に蚕玉様1基を発見しました。村内で最小のものでした。



(原町の蚕玉様⑪)

当区には三基の蚕玉様がある。しかしながら今となつては祭りを行つてゐるは北村のものだけで、他地区と同じ状況である。

北村の蚕玉様は、北村・西下・上手村・神明常会の約七戸が加名し、各常会二名の世話人が年一回中秋に例祭を行なつてゐる。各戸から運営費で賄われ、神職は頼まない。

○戸が加名し、各常会二名の世話人が年一回中秋に例祭を行なつてゐる。各戸から運営費で賄われ、神職は頼まない。

蚕玉様は山形村で唯一昭和期に作られたものである。

(南堀辻の蚕玉様⑩)



(⑨北村の蚕玉様)



【下大池】

石碑という形の蚕玉様はない。しかしながら養蚕は他地区同様行なつてゐたので、別の形での信仰があつたのだろう。